

Economic Indicators

発表日: 2023年2月28日(火)

鋳工業生産(2023年1月)

～輸出低迷で事前予想を下回る結果。1-3月期も2四半期連続の減産が濃厚～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

	鋳工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財		
	生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
21年	1月	1.9	▲5.3	1.9	▲5.2	▲1.3	▲10.3	▲4.0	▲4.0	7.6	▲0.2	0.0	▲5.7
	2月	▲0.1	▲2.6	▲0.6	▲3.7	▲0.3	▲9.4	0.6	▲3.8	0.4	6.3	▲1.7	▲5.9
	3月	1.7	3.6	0.7	3.5	0.0	▲10.0	▲1.3	▲12.5	▲3.2	8.3	0.6	1.2
	4月	1.1	15.6	1.3	15.8	0.2	▲9.9	▲0.6	▲22.0	8.9	19.2	▲0.5	15.1
	5月	▲6.2	21.0	▲2.6	21.2	▲0.5	▲8.9	1.2	▲27.8	▲1.6	22.7	▲4.5	11.0
	6月	7.2	22.9	3.2	18.9	1.6	▲5.1	▲0.2	▲21.6	3.3	22.2	2.9	9.4
	7月	▲0.8	11.1	▲0.4	10.7	▲0.3	▲4.7	1.6	▲13.3	▲0.7	19.2	0.5	0.4
	8月	▲1.9	8.4	▲2.6	6.7	▲0.1	▲3.8	1.9	▲10.0	▲1.6	24.8	▲5.2	▲5.4
	9月	▲6.5	▲2.5	▲7.2	▲4.6	2.7	0.4	4.5	0.3	▲1.4	15.1	▲13.4	▲20.0
	10月	2.1	▲4.3	2.5	▲5.9	0.5	2.1	▲1.2	4.8	▲0.9	8.8	10.9	▲14.6
	11月	5.0	4.8	5.4	3.3	1.4	5.5	▲1.5	0.5	0.6	9.9	8.9	▲1.6
	12月	0.2	2.2	0.2	2.5	0.1	4.9	▲0.3	1.2	1.5	9.7	3.4	▲0.7
22年	1月	▲2.4	▲0.8	▲1.5	▲1.3	▲0.7	4.7	1.4	5.2	1.6	6.9	▲6.2	▲5.6
	2月	2.0	0.5	0.0	▲1.5	2.1	7.1	2.0	7.5	▲5.1	0.8	1.4	▲3.7
	3月	0.3	▲1.7	0.6	▲2.4	▲0.4	6.8	0.6	10.5	1.7	5.5	▲1.5	▲6.6
	4月	▲1.5	▲4.9	▲0.3	▲4.6	▲2.3	4.1	▲2.8	8.4	1.9	▲2.5	0.7	▲5.8
	5月	▲7.5	▲3.1	▲4.1	▲3.1	▲0.9	3.8	3.1	7.9	▲4.2	▲1.9	▲4.6	▲3.4
	6月	9.2	▲2.8	5.0	▲2.9	1.9	4.2	▲1.4	7.8	8.7	1.5	4.0	▲3.6
	7月	0.8	▲2.0	1.2	▲2.1	0.6	5.1	3.8	10.5	6.9	8.0	2.0	▲2.5
	8月	3.4	5.8	2.8	5.9	0.7	5.9	▲3.0	3.6	4.2	17.8	4.9	9.8
	9月	▲1.7	9.6	▲2.5	9.4	2.9	6.1	5.1	5.4	▲3.5	13.4	▲4.2	19.8
	10月	▲3.2	3.0	▲1.7	4.1	▲0.5	5.0	▲4.5	2.8	▲4.2	9.1	0.1	7.1
	11月	0.2	▲0.9	▲0.1	▲0.5	0.3	3.8	3.3	6.9	▲3.6	4.9	2.5	1.8
	12月	0.3	▲2.4	▲0.9	▲3.1	▲0.4	3.3	1.5	10.1	1.9	3.6	2.7	▲0.3
23年	1月	▲4.6	▲2.3	▲3.1	▲2.4	▲0.9	3.2	2.5	9.6	▲5.9	▲1.2	▲5.0	2.7
	2月	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3月	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鋳工業指数」

(注)23年2月、3月は、製造工業生産予測調査の数値

○海外需要の縮小で1月は大幅減産

経済産業省から公表された23年1月の鋳工業生産は、前月比▲4.6%と3ヶ月ぶりの低下となった。1月の生産計画で減産が予想されていた自動車や生産用機械をはじめ、多くの業種が減産となり、事前の市場予想(同▲2.7%)を下回る結果となった。

1月の生産を業種別にみると、輸送機械が前月比▲9.9%(寄与度▲1.63%pt)、生産用機械が同▲13.5%(寄与度▲1.23%pt)、電子部品・デバイスが同▲4.2%(寄与度▲0.25%pt)など、15業種中12業種が低下となり鋳工業生産を押し下げた。1月は生産指数を連動性の高い実質輸出(季節調整値)も下振れており、海外需要の縮小により生産も下押しされたものとみられる。アジア圏の春節の時期が昨年よりずれ込んだことで、1月の輸出や生産は実勢以上に下振れた可能性には注意が必要だが、10-12月期から急減少が続いている生産用機械や電子・デバイスや、停滞感の強い輸送機械では先行きも順調な回復は見込みがたい。同時に公表された2月、3月の鋳工業生産予測指数では増加が見込まれるものの、景気減速懸念が根強い世界情勢を踏まえると先行きは楽観視できないだろう。

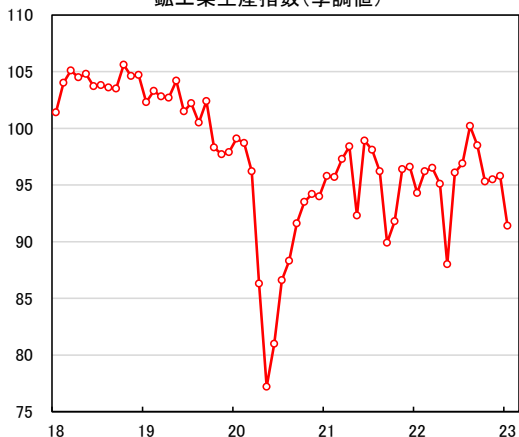


〇1-3 月期も 2 四半期連続の減産が濃厚

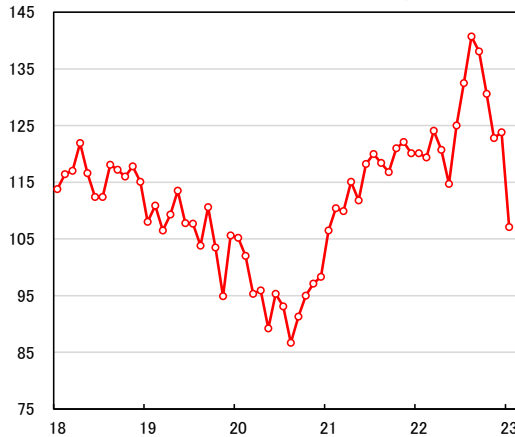
同時に公表された製造工業予測指数は、2 月が前月比+8.0%、3 月が同+0.7%となった。2 月、3 月ともに持ち直しが見込まれているが、予測指数には上振れバイアスがあることに注意が必要である。こうしたバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値では、2 月は前月比+1.3%の上昇が見込まれる。仮に 2 月が経産省補正值、3 月が予測指数通りの結果となれば、1-3 月期は前期比▲3.2%となる。加えて、このところの予測修正率は大きく下振れる傾向が続いており（2 月▲2.8%）、3 月の生産計画も下振れる可能性が高い。1-3 月期は 2 四半期連続となる減産が濃厚だ。

世界的な景気減速と IT 需要の一巡で急減少が続いている生産用機械や電子部品・デバイスは、先行きも外需の縮小を受け低迷が続く可能性が高いだろう。部品などの供給制約の悪影響が長期化している輸送機械については、1 月に前月比▲9.9%と大幅減産となった後、2 月の生産計画では同+12.6%の反動増が見込まれているが、一進一退の動きが続いており停滞感は依然として強い。中国のゼロコロナ政策からの転換で今後は供給制約の緩和が期待できるものの、欧米を中心とした海外需要の減少との綱引きとなる可能性が高く、自動車も順調な回復は見込みがたそうだ。総じて、海外経済の減速感が強まることで、生産は当面弱含みの動きが続くと予想する。

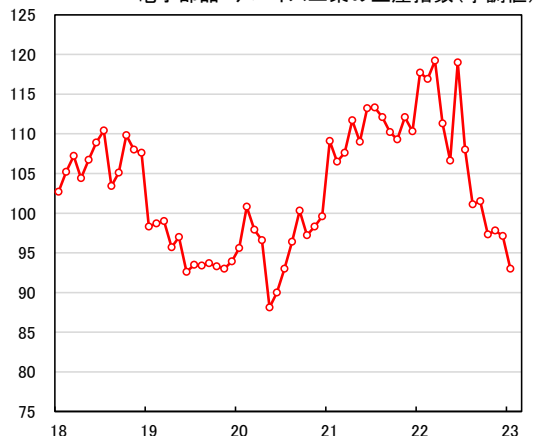
(15年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



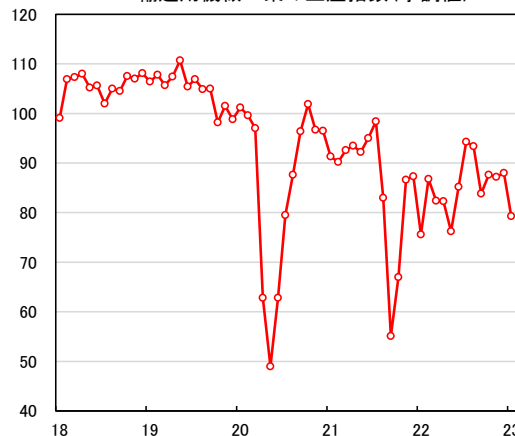
(15年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(15年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



(15年=100) 輸送用機械工業の生産指数(季調値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

